

岡山大学GTECを用いたCan-Doリストの開発

Developing Okayama University Can-Do List Using GTEC Scores

大年 順子・剣持 淑・寺西 雅子

Junko OTOSHI, Yoshi KENMOTSU, Masako TERANISHI

岡山大学全学教育・学生支援機構

教育研究紀要

第5号 2020年12月

岡山大学 GTEC を用いた Can-Do リストの開発

大年順子・剣持淑・寺西雅子

Developing Okayama University Can-Do List Using GTEC Scores

Junko OTOSHI, Yoshi KENMOTSU, Masako TERANISHI

要旨

本稿は、「2020年版 GTEC スコアに基づく岡大 Can-Do リスト (教材案内付)」の開発過程および手順を報告するものである。まず、2018年度入学者を対象に予備調査を実施し、GTEC4技能におけるスコアレベル別に一般項目36項目を抽出した。次に、2019年4月入学者を対象に全学統一 GTEC (2技能) テストにて、本調査のアンケートを実施し、一般項目を確定させた。さらに、追加調査として、2019年12月の全学統一 GTEC (4技能) テストの際に、2,215名の受検者を対象にアカデミック項目16項目のアンケート調査を行い、GTECスコアに基づく岡山大学独自の Can-Do リスト (全46項目) を完成させた。開発した Can-Do リストは、自律学習の指針として使用することが今後期待される。

キーワード アンケート調査, Can-Do リスト, GTEC スコア, 自律学習

1. はじめに

岡山大学全学教育・学生支援機構基幹教育センターは、全学の共通教育の企画及び管理・運営を行い、全学的な視野から総合大学にふさわしい外国語教育、多様なレベルの外国人留学生に対応した日本語・日本文化教育の企画・実施・評価及びその改善の主導的役割を果たす。特に、英語教育においては、外国語教育部門英語系が様々な改善や教育環境の整備に努めてきた。本稿は、それらの活動の一環として、外国語教育部門英語系が開発した「2020年版 GTEC スコアに基づく岡大 Can-Do リスト」についての報告である。

2. 開発の背景

岡山大学における教養教育「英語」の現状について、本学の現行カリキュラムでは、教養教育の英語必修単位は6単位および8単位の2種類の履修方法から学部が選択する。前者も後者も、1年次には「英語 (スピーキング)」「英語 (リーディング)」「英語 (リスニング)」「英語 (ライティング)」を履修するが、2年次には、前者では4スキルを含む「英語 (総合)」を履修し、後者では「英語 (S&L)」と「英語 (R&W)」を履修する。1年次においては、全員が週2回 (各60分) 英語科目を履修し、2年次においては、前者では1・2学期のみ、後者では1・2学期と3・4学期、週1回 (60分×2) の授業である。しかし、2021年度から

は、60分授業が50分授業になるため、英語の授業時間はさらに少なくなる。そのため、英語力を維持するあるいは高めるためには学生による自律学習が不可欠である。

これまでも学生による自律学習を支援する試みとして、英語系は、ホームページに教材案内を掲載し、語学演習室兼自習室に図書管理システムを導入して多読用書籍等の貸出を行い、大学は、学外からも利用できるeラーニングサービス（ALC NetAcademy NEXTなど）を導入し、図書館は、書籍として借りることも、電子書籍として学外からも利用できる英語多読教材等を提供するなど、授業外での自律学習環境の整備を行ってきた。

新入生の英語力の把握のため、2007年度（平成19年度）に英語 TOEIC-IP の試行が始まり、2008年度から本格実施され、2017年度まで継続して TOEIC を利用してきた。2018年度入学者から、英語力を評価する方法の一つとして、従来の全学統一 TOEIC (L&R) 2技能試験にかわり、ベネッセコーポレーションが運営する GTEC テストを導入した。入学時4月は全学統一 GTEC (2技能) テストを実施し、結果を基に1年次必修英語のクラス分けを行い、2020年度からは、12月は全学統一 GTEC (2技能) テストの結果を基に、2年次必修英語のクラス分けを行うことになった。しかし、GTEC スコアと TOEIC スコアの換算表が必ずしもうまく対応しておらず、各自の GTEC スコアがどの程度の英語力を意味するのか、学生も教員もイメージしにくいところがあった。そこで、GTEC スコアと「英語で何が、どの程度できるのか」という具体的なイメージを連携させることにより、自律学習態度を育成し、英語学習に対するモチベーションを維持するための支援を行うことを目的に、2018年に、岡山大学版 Can-Do リストの開発を計画した。情報収集から始まり、2018年の予備調査、2019年の本調査と追加調査を経て、2020年に岡大 Can-Do リストを完成させた。

3. 予備調査—一般項目作成—

2018年12月に1年生を対象とした全学統一 GTEC (4技能) テストが実施されることから、各自が取得した4技能のスキル別スコアを基に Can-Do 項目の作成のための調査を実施することとなった。

3.1. 調査対象者

予備調査は、2018年度入学者1年生2,301名を対象とした。このうち、2018年12月に実施された全学統一 GTEC (4技能) テストを受検し、かつ Can-Do リストアンケート調査に協力した学生をデータ収集の最終対象者とした。回答者の4技能項目の内訳は、リスニングは1,434名、リーディングは1,157名、スピーキングは1,080名、ライティングは1,110名であった。

3.2. Can-Do リストアンケート項目

アンケート項目はリスニング、リーディング、スピーキング、およびライティングの4技能別に作成された。項目は、広島大学英語 Can-Do リストの開発（鬼田他, 2017）および（株）ベネッセコーポレーション GTEC Academic CANDO（2018）を参照した。予備調査実施にあた

り本学教員4名で項目を選別して文言を編集した。その結果、リスニング19項目、リーディング18項目、スピーキング22項目、およびライティング18項目が予備調査のCan-Doリストアンケートとして使用されることとなった。また、アンケートの回答は、「まったく当てはまらない」から「非常に当てはまる」の5件法とした（1：まったく当てはまらない，2：ほとんど当てはまらない，3：かろうじて当てはまる，4：ほぼ当てはまる，5：非常に当てはまる）。

3.3. データ収集手順

アンケート調査は、2019年1月21日から同年1月31日までに岡山大学Moodleシステムの「アンケート」機能を用いて実施された。回答数を上げるために、全学教育・学生支援機構基幹教育センター長名で1年次生に向けて依頼書が配布された。学生は、GTEC Academic CANDO（2018）が分類した各スキル別スコアの8段階のレベルから該当するレベルよりアンケート画面に入り、アンケート項目に回答した。予備調査はあくまでも、岡大Can-Doリスト項目作成が目的ではあったが、最終版の比較資料として参照するために、レベル別にアンケートの回答を求めた。なお、各スキルのレベルに関わらずアンケート項目はすべて同じであった。

3.4. データ分析手法

Moodleシステムより収集されたアンケート結果はテキストデータで表示され、その後、分析のために各回答項目を数値化してエクセルファイルに移行された。また、各スキルの負の項目については、数値を反転させてCan-Do項目の回答スケールと一致させた。

これらのデータ整理後に、SPSS22.0を用いての記述統計、信頼度測定、因子分析等の統計分析を行った。さらに、項目の難易度を精査するためにラッシュモデルを用いて検証を行った。これにより、同程度の難易度であれば代表項目として抽出されることが期待された。分析にはWinsteps4.40を使用し、回答学生の英語能力と項目難易度が表示された分布図を確認した。最終的な項目の選別および文言の編集は、当該機関の英語系教員2名および言語評価法に詳しい日本語系教員1名の合計3名で分析にあたった。

3.5. Can-Do リスト項目結果

本節では、紙面の都合によりリスニング項目作成を例にあげて報告していく。表1はリスニングに関する19項目のCan-Do項目に対して、学生の回答の平均値と標準偏差を示したものである。

表 1. リスニング Can-Do リストアンケート結果 記述統計 (N=1,434)

項目番号	項目	平均値	標準偏差
Q01	英語での電話でのやりとりでも、相手の話すことの内容理解に大きな支障はない	2.68	0.94
Q02	英語の会議などでは概ねついていくことができるが、部分的に理解できないところがある	2.94	1.10
Q03	英語を使った会議は難しいが、旅行や買い物でのやり取り程度であれば支障なく理解できる	3.23	0.99
Q04	ホテルやレストランの予約や買い物の際に、相手の言うことに何とかついて行ける	3.02	0.97
Q05	旅行などの場面で、相手が言うことを半分程度は理解できる	3.11	1.01
Q06	単純なフレーズならば理解できるが、会話にはついていくのが困難	2.55	1.02
Q07	単語や単純なフレーズをゆっくり言ってもらえれば、何とか理解できる	3.84	1.04
Q08	“How are you?” “Where do you live?” “How do you feel?” といった簡単な挨拶や質問を理解できる	4.21	1.01
Q09	ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの場所までの道順を理解できる	3.83	1.04
Q10	自己紹介を聞いて（耳慣れない人名や地名でなければ）相手の名前や出身地等を聞き取ることができる	3.71	1.07
Q11	日付、時間を聞いて理解できる	3.89	1.01
Q12	事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば、テレビのニュースでアナウンサーの話す内容を聞いて理解することができる	3.11	1.00
Q13	初めて耳にする話題であってもテレビのニュースを聞いてアナウンサーの話す内容を理解することができる	2.43	1.02
Q14	映画やテレビドラマを見て（聞いて）内容を理解できる	2.65	0.98
Q15	テレビやラジオのニュースなどで、インタビューに答えている人の話す内容を聞いて理解することができる	2.56	0.95
Q16	自分の専攻分野の講義や講演を聞いて理解することができる	2.26	1.02
Q17	人の呼び出しや予定行事の（変更）案内といった、公共の場でよく行われるアナウンスを聞いて内容を理解できる	2.91	0.99
Q18	先生が授業中に出す指示を理解できる。（“Open your textbook to page…” など）	3.83	1.02
Q19	意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる	2.76	0.99

項目番号 Q02 と項目番号 Q06 は負の項目となっており、数値を反転して平均値を算出している。

項目の内的整合性を検証する信頼性分析を行ったところ、クロンバック α 値は.88 であった。しかし、Q02 を削除すれば.904 に上昇することから、Q02 は信頼性に問題のある項目であることが推察された。さらに、因子分析を行ったところ、3つの因子（学習リスニング力、生活リーディング力、実践リスニング力）が抽出されたが、Q06 は3つの因子に属さない独立因子であることがわかった。このように、負の項目である Q02 と Q06 は信頼性に問題のある項目であることが認められ、Can-Do 項目から外すことが検討された。

下記図 1 は、回答者の能力と難易度の分布を表したものである。中心線の左側が回答者、右側が各項目である。項目難易度は上にいくにつれて高くなり、アンケート項目に対して「当てはまる」と回答する学生の能力値が高くなる。項目難易度の同程度のものは一列に配置されているため、同列に配置されている項目であれば、その中でもっとも適切な項目を抽出することにした。

図1. リスニング項目回答者とアンケート項目の分布

MEASURE	PERSON	MAP	ITEM
4	.	+	
	.		
	.		
	.		
2	.	+	
	.	T	
	##	T	
	##		
	##		
	####	Q16	
1	#####	S+ Q13	
	####	S Q06 Q15	
	#####	Q01 Q14	
	#####	Q19	
	#####	Q02 Q17	
	#####	M Q04	
0	#####	+M Q05 Q12	
	#####	Q03	
	#####		
	####		
	###	S	
	####	S Q10	
-1	.	+	Q07 Q09 Q11 Q18
	#		
	.		
	.	T	Q08
	.	T	
	.		
-2	.	+	
	.		
	.		
	.		
	.		
-3	.	+	
	.		
	.		
	.		
	.		
-4	.	+	
	<less>	<freq>	

注. “#” は、10名，“.” は1名を表す

例えば、下から Q07, Q09, Q11, および Q18 は同じ難易度にあることがわかる。このうち、Q07 については、回答者の infit 値が 1.36 , outfit 値が 1.62 と Linacre (2012) が推奨している .5~1.50 から外れており、学生の回答傾向に一貫性を持たない問題項目であることがうかがえる。また、Q11 と Q18 は、本学の学生を対象とした項目としては、平易すぎると判断し、当該レベルの項目として Q09 の「ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの場合までの道順を理解できる」を残すことにした。

さらに、Dörnyei (2003) の第2言語研究におけるアンケート項目の作成上の注意事項を参照して、あいまいな副詞表現（例えば、Q04 の“何とか”）や選択が2つ以上あり（例え

ば、Q03) 回答者の判断を迷わすような項目は排除することにした。このような手続きを経ての精査の後、下記表 2 の 9 項目を最終的なリスニング Can-Do リストアンケート項目とした。

表 2. リスニング Can-Do リストアンケート最終項目

1	自分の専攻分野の講義や講演を聞いて理解できる
2	テレビやラジオで初めて耳にするニュースを聞いて内容を理解できる
3	映画やテレビドラマを見て(聞いて)内容を理解できる
4	意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる
5	空港や駅などで予定変更や呼び出しなどのアナウンスを聞いて内容を理解できる
6	内容を知っている話題であれば、テレビのニュースを聞いて内容を理解できる
7	自己紹介を聞いて(耳慣れない人名や地名でなければ)相手の名前や出身地等を聞き取ることができる
8	ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの間所までの道順を理解できる
9	“How are you?” “Where do you live?” “How do you feel?” といった簡単な挨拶や質問を理解できる

4. 本調査—Can-Do 項目のスコアレベル設定—

2019年4月、全学統一 GTEC (2技能) テストにおいて、確定した一般項目 36 項目のアンケート調査を実施した。アンケートに回答した参加者は、2019年度岡山大学入学者1年生 2,271 名である。本調査の目的は、各 GTEC スコア 8 レベルに対応する項目の抽出である。なお、4月時の GTEC テストは2技能であったため、スピーキングとライティングは実施されなかった。したがって、表3に示されているとおり、各レベルの満点をトータルスコアとして、それをスピーキングとライティングのスコアレベルとして採用した。回答の選択肢は、予備調査同様、5件法が用いられた。

表 3. 各スキルスコアレベル

Listening	Reading	Total (Speaking and Writing)
0-59	0-69	0-128
60-99	70-89	129-188
100-119	90-109	189-228
120-139	110-129	229-268
140-159	130-149	269-308
160-179	150-189	309-368
180-199	190-219	369-418
200-250	220-250	419-500

以下、リスニング Can-Do 項目の抽出を例にあげて見ていく。

表 4. リスニング項目 9 のクロス集計表

		Q9 “How are you ?” “Where do you live ?” “How do you feel ?” といった簡単な挨拶や質問を理解できる (4, 20)					
		まったく当てはまらない	ほとんど当てはまらない	かろうじて当てはまる	ほぼ当てはまる	非常に当てはまる	合計
Level	1 (0-59)	0	1	7	2	1	11
	2 (60-99)	0	0	5	1	4	10
	3 (100-119)	9	31	218	389	403	1050
	4 (120-139)	3	14	102	262	305	686
	5 (140-159)	4	2	46	136	195	383
	6 (160-179)	0	0	8	28	64	100
	7 (180-199)	0	0	1	5	15	21
	8 (200-250)	0	0	0	0	10	10
合計		16	48	387	823	997	2271

Can-Do 項目の抽出は鬼田他（2017）を参考とした。表 4 で提示されているように、レベルごとにアンケート回答結果をクロス集計表で整理した結果、「かろうじて当てはまる」から「非常に当てはまる」までの 5 件法の肯定の回答合計が過半数を超える、最初のレベルというのを 1 つの指針とした。例えば、表 4 の項目番号 9 は、レベル 1 に属する 11 名のうち、10 名が「かろうじて当てはまる」から「非常に当てはまる」と回答しており、この項目はレベル 1 の Can-Do 項目であると決定した。

5. 追加調査—アカデミック項目の追加—

追加調査は、2019 年 12 月、全学統一 GTEC（4 技能）テストの際にアンケート形式で実施した。対象者は、2019 年度岡山大学入学者 1 年生 2,215 名である。本追加調査の目的は、アカデミック項目の追加である。まず、下記手順 1～3 で「アカデミック項目」を作成した。

1. 投野（2012）からアカデミック項目を抽出
2. パネルディスカッションを行い、項目を絞る
3. 一般項目からもアカデミック項目を抽出し、各スキル 4 項目を作成

その後、完成したアカデミック項目を用いて調査を実施し、そして、各項目の GTEC スコアレベル（1～8）を判定し、一般項目とあわせて最終リストを完成させた。本節では、アカデミック項目リスニング作成を例にあげて報告していく。手順 1 として、東京外国語大学投野由紀夫研究室（2012）「CEFR-J を活用するための ‘Can Do’ Descriptor リスト」を用いて、アカデミックと考えられる項目を抽出した。アカデミックの基準としては、「学部生から大学院生までが、英語でできるようになる活動」を念頭に置いた。表 5 に示しているのが、リスニング項目 8 つである。この段階では、CEFR のすべてのレベルから均一に拾い出すことは難しく、項目が重なったり、スキルによっては項目がなかったりという偏りがあった。

表 5. 投野 (2012) より抽出したアカデミック項目

	CEF レベル	元項目
1	C2	多くの口語表現、方言の用法、聞き慣れない専門用語を含む専門的な講義や発表を理解することができる。
2	C1	自分の学問あるいは職業の分野のほとんどの講義、討議、討論を比較的容易に理解することができる。
3	C1	話題や言語が複雑であっても、職業や学問の自分の関心分野の講義、講演、報告を理解することができる。
4	B2	自分の職業の分野に直接あるいは間接的に関連のある発表、デモンストレーション、講義を難無く理解することができる。
5	B1, 2	自分の専門分野の学問や職業についての講義、講演、報告などの発表の要点を理解することができる。
6	B1, 2	トピックが身近で、発表が明確で構成がはっきりしていれば、自分の学問や職業の専門分野の講義や講演を理解することができる。
7	B1, 2	トピックが身近で、発表が明確で構成がはっきりしていれば、自分の専門分野の講義や講演を理解することができる。
8	A2	ゆっくりはっきりと話されれば、短い簡単な話を理解することができる。

手順 2 として、本学教員 4 名が、ディスカッションを行ない、大学生のアカデミック項目にふさわしいものに○をつけ、4 名のうち 3 名が○をつけたものを抽出した。リスニングでは、8 項目のうち、2, 3, 6, 7 の 4 項目を抽出し、さらに検討した結果、内容の重なりから 2 と 3 および 6 と 7 を統合して記述文の修正を行った。それぞれ、「内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる」「トピックが身近で、構成がはっきりとしていれば、自分の専攻分野の講演を聞いて理解できる」が作成された。この結果、投野 (2012) から 2 項目を作成することとなった。また文言修正の際には、一般項目作成と同様に、Dörnyei (2003) を参考にした。

手順 3 として、すでに作成していた一般項目からもアカデミック項目を抽出した。リスニングの場合は、「1. 自分の専攻分野の講義や講演を聞いて理解できる」と「4. 意見が異なる 2 人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる」である。そして、アカデミック項目と一般項目をあわせて 4 項目をリスニングのアカデミック項目とした。表 6 は、最終的に完成したリスニングのアカデミック 4 項目である。

表 6. リスニングのアカデミック項目

設問番号	項目
L1	内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる
L2	専攻分野に関しての講義や報告を聞いて要点を理解できる
L3	トピックが身近で、構成がはっきりとしていれば、自分の専攻分野の講演を聞いて理解できる
L4	意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる

同様に、それぞれのスキルにおいてアカデミック 4 項目を検討作成し、合計 16 項目のアカデミック項目を完成させ、追加調査のアンケートを実施することとなった。

最後に、追加調査のアンケート実施後に行った GTEC スコアレベルの判定について説明する。アカデミック項目についても、一般項目で示したレベル判定の指針に基づく判定からスタートし、最終的には、英語系教員の議論によってレベルを判定した。このプロセスについて、リスニング L1「内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる」を用いて説明したい。

まず、調査結果からこの項目についてのクロス集計表を作成して数値を検討した。表 7 にあるように、アンケート結果からルールに基づいて判定すると、過半数の学生が肯定の回答をしている最低レベルは、GTEC スコアレベル 5 であった。

表 7. L1 項目についてのクロス集計表

リスニングレベル と L1 のクロス集計表							
	L1: 内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる (2, 38)						合計
	未回答	1	2	3	4	5	
1(0-59)	0	1	3	3	0	1	8
2(60-99)	0	83	141	102	12	9	347
3(100-119)	1	127	309	225	27	16	705
4(120-139)	3	91	274	252	35	18	673
5(140-159)	0	43	131	150	23	6	353
6(160-179)	0	11	24	46	12	6	99
7(180-199)	0	1	3	7	8	2	21
8(200-250)	0	0	1	1	3	4	9
合計	4	357	886	786	120	62	2215

しかし、教員による議論の結果、この項目はレベル 8 に対応すると判定した。その理由としては、GTEC スコアレベルの上位層では対象者が少なく、数値結果による判定に信頼性がないことが挙げられる。またもう一つの理由として、アカデミック項目の場合、対象者となった大学 1 年生にとって、12 月の段階では専門分野の英語による講義の受講経験に応じて回答に違いがでてくると予測できた点がある。本項目 L1 の場合、リスニング項目ではもっとも難易度の高い項目であったため、全体バランスを考慮して GTEC スコアレベル 8 とした。このように、アカデミック項目の判定は、アンケート結果よりむしろ教員の議論から全体的なバランスを重視して判定した。表 8 は、最終的なリスニング項目の中でのアカデミック項目である。

表 8. 最終的なリスニング項目の中でのアカデミック項目

1 (0-59)	◆“How are you ?”“Where do you live ?”“How do you feel ?”といった簡単な挨拶や質問を理解できる ◆ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの場所までの道順を理解できる ◆自己紹介を聞いて（耳慣れない人名や地名でなければ）相手の名前や出身地等を聞き取ることができる
2 (60-99)	◆空港や駅などで予定変更や呼び出しなどのアナウンスを聞いて内容を理解できる
3 (100-119)	◆内容を知っている話題であれば、テレビのニュースを聞いて内容を理解できる
4 (120-139)	◆トピックが身近で、構成がはっきりとしていれば、自分の専攻分野の講演を聞いて理解できる
5 (140-159)	◆映画やテレビドラマを見て（聞いて）内容を理解できる
6 (160-179)	◆意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる ◆テレビやラジオで初めて耳にするニュースを聞いて内容を理解できる
7 (180-199)	◆専攻分野に関する講義や報告を聞いて要点を理解できる
8 (200-250)	◆内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる

全体の中で、アカデミック項目が上位に入った。そしてすべての GTEC スコアレベルに少なくとも一つは Can-Do 項目が入るように、バランスを調整して最終的なリストを完成させた。

その他の3スキルについても、同様にアカデミック項目を追加作成した。以下に、それぞれのスキルのアカデミック項目を示す。

表 9. リーディングのアカデミック項目

設問番号	項目
R1	自分の専攻分野の非常に専門的な論文を読んで情報や意見を取り出すことができる
R2	自分の専攻分野の論文を読んで内容を理解できる
R3	自分の関心のある分野の簡単な文章を読んで特定の情報を見つけることができる
R4	初めて目にする話題であっても、新聞・雑誌を読んで内容を理解できる

表 10. ライティングのアカデミック項目

設問番号	項目
W1	資料を用いて詳細な例や論拠を挙げて主張を支持するエッセイを書くことができる
W2	はっきりした意見を持っているトピックについて、主張を明確にしたエッセイを構成を整えて書くことができる
W3	自分の関心がある分野のさまざまなトピックについて、まとまりのある文章を書くことができる
W4	自分の専攻分野に関するテーマについて主張を明確にした論文を書くことができる

表 11. スピーキングのアカデミック項目

設問番号	項目
S1	幅広い学問的な話題について流暢に正確に話すことができる
S2	自分の専攻分野に関連する話題について意見を交換することができる
S3	自分の専攻分野を説明することができる
S4	自分の専攻分野に関連するテーマでプレゼンテーションやスピーチができる

スピーキングのアカデミック項目の判定について、補足説明を加えさせていただく。項目のレベルを判定する際に、アンケート調査を受けた対象者に、レベル対応する学生がまったくいない、あるいは極めて少ないケースが見られた。例えば、S1「幅広い学問的な話題について流暢に正確に話すことができる」についてクロス集計表（表 12）で見ると、GTEC スコアレベル上位においても肯定回答が過半数を超えるスコアレベルはなく、またレベル7には「非常に当てはまる」が1名いたが、項目に対応するレベルを判定するには至らない結果であった。対象者が大学1年生であるため、アカデミックレベルに対応する対象者がほとんどいないことは十分予測できることであった。したがって、この判定に関しても、アンケート結果では対応する学生はいないが、教員による議論の結果、「学生ができるようになる」もっとも高いレベルとして、レベル8と判定した。

表 12. S1 項目についてのクロス集計表

レベル と S1 のクロス集計表							
	S1 : 幅広い学問的な話題について流暢に正確に話すことができる (1. 83)						合計
	未回答	1	2	3	4	5	
1(0-79)	1	34	22	9	1	2	69
2(80-99)	0	58	48	21	4	1	132
3(100-119)	1	317	271	90	11	16	706
4(120-139)	2	433	417	148	20	18	1038
5(140-159)	0	78	98	55	14	8	253
6(160-189)	0	5	4	4	1	2	16
7(190-219)	0	0	0	0	0	1	1
8(220-250)	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	925	860	327	51	48	2215

まとめ

岡大 Can-Do リストは、実際の GTEC テストの 2 技能および 4 技能のスコア結果と試験直後の学生へのアンケート調査結果を基に、英語を使う場面で「何が、どの程度できるのか」を判定し、記述が段階別になるように調整を行っているため、スコアと Can-Do の記述の対

応は、ある程度実態を伴ったものになっていると考える。学生は、各自の GTEC スコアとスコアレベルに対応する Can-Do リストの記述から「今、何が英語でできるのか」を自己診断でき、もう一段上の英語力を目指す学生には、教材案内を利用して、具体的な学習計画を立て、自律学習が行えるような助けになることを期待している。「今後どのような場面で、どのように英語を使いたいのか」「このスコアになれば、何が、どの程度できるようになるのか」を Can-Do リストの記述からイメージすることにより、英語学習に対するモチベーションの維持につながることを期待している。2021 年度入学者から、2 回目の GTEC テストは 2 年次の必修英語科目を修了する頃に実施することが決まっている。最短で 2022 年の 2 年次 2 学期に必修英語 6 単位の学部の学生が、2 年次 4 学期に必修英語 8 単位の学部の学生が受検する。できるならば、2021 年度入学者には 4 月の第 1 回全学統一 GTEC テストと 2 年次の第 2 回 GTEC テストに合わせて Can-Do のアンケート調査を実施し、Can-Do の意識にどのような変化があるのか、実態調査ができればと考えている。Can-Do リストの利用および教材案内が学生の意識に影響を及ぼすのか否かも含めて検証し、岡山大学の英語教育がさらに改善されていくことが期待される。

謝辞

岡山大学版 Can-Do リストの開発にあたりご尽力いただいたベネッセ i キャリアの GTEC ご担当の皆様、岡山大学学務企画課教育支援グループの皆様および本プロジェクトメンバーの教員の皆様、そして調査にご協力いただいた学生の皆様に心から謝意を表します。

引用文献

- (株) ベネッセコーポレーション(編)(2018). 『GTEC Academic CANDO』
- Dörnyei, Z. (2003). *Questionnaires in Second Language Research: Construction, Administration, and Processing*. NJ: Lawrence Erlbaum Associations.
- Linacre, J. M. (2012). Many-Facet Rasch Measurement: Facets Tutorial. Retrieved from <http://winsteps.com/tutorials.htm>
- 鬼田崇作・榎田一路・上西幸治・草薙邦広・阪上辰也・田北冬子・吉川りさ (2017). 「e ポートフォリオシステム Mahara を用いた「広島大学英語 Can-Do リスト」の活用」『広島外国語教育研究』第 21 号, 121-135.
- 東京外国語大学投野由紀夫 研究室 (2012). 「CEFR-J を活用するための ‘Can Do’ Descriptor リスト」 Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2012/09/24/1325972_2_3.pdf

付録

Listening	
1 (0-59)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ “How are you ?” “Where do you live ?” “How do you feel ?” といった簡単な挨拶や質問を理解できる ◆ ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの場所までの道順を理解できる ◆ 自己紹介を聞いて(耳慣れない人名や地名でなければ)相手の名前や出身地等を聞き取ることができる
2 (60-99)	◆ 空港や駅などで予定変更や呼び出しなどのアナウンスを聞いて内容を理解できる
3 (100-119)	◆ 内容を知っている話題であれば、テレビのニュースを聞いて内容を理解できる
4 (120-139)	◆ トピックが身近で、構成がはっきりとしていれば、自分の専攻分野の講演を聞いて理解できる
5 (140-159)	◆ 映画やテレビドラマを見て(聞いて)内容を理解できる
6 (160-179)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる ◆ テレビやラジオで初めて耳にするニュースを聞いて内容を理解できる
7 (180-199)	◆ 専攻分野に関する講義や報告を聞いて要点を理解できる
8 (200-250)	◆ 内容や構成が複雑であっても、自分の専攻分野の講義や報告を聞いて理解できる
1 (0-59)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ I can understand simple greetings and questions such as "How are you?", "Where do you live?", or "How do you feel?" ◆ I can understand directions to places nearby if spoken slowly and carefully. ◆ I can listen to self-introductions (unless the names of people and places are unfamiliar) and can understand the speaker's name, place of birth, etc.
2 (60-99)	◆ I can understand the contents of public announcements at airports and train stations, such as schedule changes and paging people.
3 (100-119)	◆ If I am familiar with the topic, I can understand the content of the news on TV.
4 (120-139)	◆ If the topic is familiar and well organized, I can understand lectures in my major.
5 (140-159)	◆ I can understand the contents when I watch a movie or TV program.
6 (160-179)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ When I listen to the discussions of two people with different opinions, I can understand their main points and opposing views. ◆ I can understand news that I hear for the first time on TV or on the radio.
7 (180-199)	◆ I can understand the main points of a lecture or report in my major.
8 (200-250)	◆ Even if the content is not organized well, I can understand the main points of a lecture or report if it is in my major.

Reading	
1 (0-69)	◆簡単な案内用看板を見て意味を理解できる。(「EXIT」「Entrance」「STOP!」など)
2 (70-89)	◆電車やバス、飛行機等の時刻表を見て、出発／到着時間や行先を理解できる ◆事前に知っている話題であれば、新聞・雑誌を読んで内容を理解できる
3 (90-109)	◆友達からのメールを読んで内容を理解できる ◆レストランのメニューがわかる
4 (110-129)	◆自分の関心のある分野の簡単な文章を読んで特定の情報を見つけることができる ◆自分の興味があるホームページを見て内容を理解できる
5 (130-149)	◆初めて目にする話題であっても、新聞・雑誌を読んで内容を理解できる
6 (150-189)	◆自分の専攻分野の論文を読んで内容を理解できる
7 (190-219)	◆原書で長編小説を読んで内容を理解できる
8 (220-250)	◆自分の専攻分野の非常に専門的な論文を読んで情報や意見を取り出すことができる
1 (0-69)	◆ I can understand simple messages on signs, such as "Exit", "Entrance", or "Stop!"
2 (70-89)	◆ I can read the time table at the airport or at a bus stop, and understand the departure/arrival time and destination. ◆ If I am familiar with the topic, I can read and understand the newspaper or magazine.
3 (90-109)	◆ I can read and understand messages written by my friends. ◆ I can understand restaurant menus.
4 (110-129)	◆ I can read simple sentences in my areas of interest to find specific information. ◆ I can understand the content of websites that interest me.
5 (130-149)	◆ Even if the topic is new for me, I can read and understand the newspaper or magazine.
6 (150-189)	◆ I can read and understand reports/theses written about topics in my field of study.
7 (190-219)	◆ I can read and understand the contents of a full-length novel in its original form.
8 (220-250)	◆ I can read very specialized dissertations in my field of study and understand the facts and opinions.

Speaking	
1 (0-79)	◆自己紹介(氏名, 年齢, 学年等)ができる ◆自分の出身地について説明できる
2 (80-99)	◆食べ物など馴染みのあるトピックで会話ができる
3 (100-119)	◆一日の自分の行動を順を追って説明できる
4 (120-139)	◆親しい友人／知人が集まる場所で, 簡単なスピーチができる ◆意見が対立している時に, どういう理由でどちらに賛成する(あるいは反対する)といった自分の立場を表明できる
5 (140-159)	◆自分が学校で習っていることについて説明できる
6 (160-189)	◆自分が見た映画, テレビ番組のあらすじを説明できる
7 (190-219)	◆自分の専攻分野を説明することができる ◆自分の専攻分野に関連する話題について意見を交換することができる ◆自分の専攻分野に関連するテーマでプレゼンテーションやスピーチができる
8 (220-250)	◆幅広い学問的な話題について流暢に正確に話すことができる
1 (0-79)	◆I can give a self-introduction (name, age, school year). ◆I can explain about my hometown.
2 (80-99)	◆I can have a conversation about everyday topics, such as food.
3 (100-119)	◆I can explain my day's activity step-by-step.
4 (120-139)	◆I can give a simple speech to a gathering of close friends / acquaintances. ◆In a discussion, I can express my stance based on which opinion I agree with (or disagree with).
5 (140-159)	◆I can explain what I am studying in school.
6 (160-189)	◆I can explain the story of a movie or TV show I watched.
7 (190-219)	◆I can explain about my field of study. ◆I can have a discussion about an issue related to my field of study. ◆I can give a speech or presentation about an issue related to my field of study.
8 (220-250)	◆I can speak fluently and accurately on a wide range of academic topics.

Writing	
1 (0-69)	<ul style="list-style-type: none"> ◆友達にBirthday CardやChristmas Cardを書くことができる ◆友達にメールを書くことができる
2 (70-89)	<ul style="list-style-type: none"> ◆一日の自分の行動を順を追って書くことができる ◆自分の将来の夢(どういった職業に就きたいか等)について書くことができる
3 (90-109)	<ul style="list-style-type: none"> ◆先生に欠席する理由を説明するメールを書くことができる
4 (110-129)	<ul style="list-style-type: none"> ◆はっきりした意見を持っているトピックについて、主張を明確にしたエッセイを構成を整えて書くことができる ◆自分の関心がある分野のさまざまなトピックについて、まとまりのある文章を書くことができる
5 (130-159)	<ul style="list-style-type: none"> ◆読んだ本についての感想文を書くことができる
6 (160-189)	<ul style="list-style-type: none"> ◆資料を用いて詳細な例や論拠を挙げて主張を支持するエッセイを書くことができる
7 (190-219)	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の履歴書を書くことができる
8 (220-250)	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題レポート(実験報告や調査報告)を書くことができる ◆自分の専攻分野に関するテーマについて主張を明確にした論文を書くことができる
1 (0-69)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write a birthday or Christmas card to a friend. ◆I can write an email message to my friend.
2 (70-89)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write about my day's activity step-by-step. ◆I can write about my future dreams (e.g., about the career I would like to have).
3 (90-109)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write an email to my teacher explaining an absence.
4 (110-129)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write a structured essay with clear main points about a topic I have a firm opinion about. ◆I can write coherent texts about many topics related to my field of interest.
5 (130-159)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write a report about a book I have read.
6 (160-189)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write an essay that supports my thesis with detailed examples and rationale using researched materials.
7 (190-219)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write my resume/curriculum vitae.
8 (220-250)	<ul style="list-style-type: none"> ◆I can write an academic report (experimental research or survey results). ◆I can write a well-supported essay on a topic related to my major.